

会 議 録

会議の名称	平成29年度第2回 病院運営審議会		
開催日時	平成29年(2017年) 9月7日(木) 13時30分 ~ 15時30分		
開催場所	市立豊中病院 講堂 (管理棟5階)	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	市立豊中病院 総務企画課	傍聴者数	1人
公開しなかつた理由	つ		
出席者	委員	天野陽子、上西晟子、角本典子、澤村昭彦、高鳥毛敏雄、多田耕三、浜田恭介、深谷和代、真鍋哲也、渡邊太郎	
	事務局	病院事業管理者 小林栄、総長 眞下節、病院長 堂野恵三、副院長 嶺尾郁夫、副院長兼看護部長 藤田幸恵、医務局長 巽千賀夫、薬剤部長 村田充弘、事務局長 小杉洋樹、看護部次長 木本正美、事務局次長兼総務企画課長 朝倉敏和、医療安全管理室長 中上紀子、医事課長 中村卓、施設用度課長 津川昌夫、がん相談支援センター長 細貝徳子、地域医療室長 甲斐智典、栄養管理部長 中井智明、地域医療室主幹 下雅意陽子、医療安全管理室主幹 杉山真紀、総務企画課主幹 鷺見一馬、総務企画課主幹 城戸篤、総務企画課長補佐 入江基宏、医療情報室長補佐 櫻田靖之	
	その他		
議題	(1) 新たな病院運営計画について (2) その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

病院運営審議会（審議等の概要）

●委員の出席状況と審議会成立の報告

全委員11人中10人出席、本審議会成立を報告

●傍聴希望申込みの許可

傍聴希望者あり（1名）

●議案審議

- 1) 新たな病院運営計画について
- 2) その他

●審議結果

1. 新たな病院運営計画について事務局より資料に基づき説明（第1章～第3章）

《質疑応答・意見等》

1. 業務状況、社会情勢など細かく分析しているが、これまでの5カ年計画の振返りがないのではないか。

2. 計画を進める上での基本はPDCAであるため、過去5年間の振り返りを踏まえて、新たな計画を立てていく必要がある。

3. 過去5年間の計画の実施状況について、未達成のもの、達成したが更なる目標を設定すべきもの等が記載されていると過去の振り返りができる。

4. 実績状況で、なぜ達成できなかったのかを分析すると次の計画作成に役立てられると考える。また、医療機器の効率的な活用についての分析や人的資源の配置等を分析することで、これからどの様な医療を実施すべきかを考えることが出来るのではないか。

振り返りが重要であると認識している。当院の過去5年間は、全般としては医療的・経営的に整備されてきたと感じている。振り返り表現については、全般・個別の両側面で見ることがあり、一部記載を見直していきたい。

なお、診療報酬改定など国の方針が大きく変化する中で、医療機関の方向性を具体的に示すのが難しい状況にある。

以上を踏まえて、計画的かつ柔軟な対応をしていく。

5. 医療情勢にあわせ、運営計画の各論には医療介護連携への取り組みなどが新たに盛り込まれているように、基本理念・基本方針も医療情勢に合わせて見直す必要があるのではないか。

6. 基本方針にはもっと具体的なビジョンを示すべきではないか。また、急性期病院として具体的にどのような診療に力を入れるのか示したほうがよいのではないか。

7. 地域の中核病院として信頼される病院である必要がある。高齢者とその家族の相談窓口が不足している。病気を苦にして自殺する人々への対応を基本方針に盛り込んでいただきたい。

基本理念・基本方針は、基本的に当院の不変の理念を示している。社会情勢の変化に応じて対応していく。

8. 豊能二次医療圏には大阪大学医学部附属病院等の高度急性期病院が他にもある。医療機能分化の流れを考慮し、本院はどこを目指したいのか。

また、収益の向上で、生産性向上について記載がない。周辺病院で行っていることを、市立豊中病院で行う必要はなく、医療提供者の診療の生産性向上についての観点を記載すべきではないか。

病院の機能について、ICU, HCUの整備など高度急性期の整備も進めつつ、急性期を堅持していく方向である。しかしながら、回復期・慢性期に該当する患者が入院している現状があり、100%割り切れるものではなく、現実的な案を考える。また、連携を具体的にどう進めるかは、国等が定める方向性が見えてきた段階で具体的な検討を進めていく。

9. 表17に薬剤部が記載されていないのはなぜか。

薬剤師については、表に示してはいないが、第4節の1の文中に医療スタッフの確保について記載をしている。薬剤師に対しての個別の言及はしていないが、記載方法を検討する。

2. 新たな病院運営計画について事務局より資料に基づき説明（第4章）

《質疑応答・意見等》

10. 第1章から第3章の内容を踏まえて第4章を作成すべきだと思う。また、この4つの柱を定めた背景・理由はなにか。

病院の中で議論し現在示している4つの柱を定めた。今後の医療需要の変化に対応するため「医療機能と質の向上」を、また2025年問題等の今後の社会的変化を踏まえて「地域医療連携の推進」を設定した。加えて患者サービスの向上、働き方改革などの労働環境の変化を踏まえ「患者サービスの向上、職員の働き方の改善」と、赤字を出さない安定した経営を図るため「業務の効率化と経営基盤の確立」を設定した。

11. 上記説明の内容を第4章の冒頭に記載すると分かりやすいのではないか。一般市民の目線で今後の豊中病院の方向性が分かる文章になっているかを見直して欲しい。

12. 第3節「職員のモチベーションの向上」は第1節の「医療機能の質の向上」に該当するのではないかと。研修機会の確保や資格取得等は現在も行っていると思うのが、さらに充実させていくのであればもっと具体的に記載しても良いのではないかと。

職員の働き方については色々な意見が出ている。病院全体としても非常に重要な課題だと認識している。

13. 第3節「地域への積極的な情報の発信」では、公開講座の開催をする旨を記載しているが、医師が時間を割いて開催してくれれば、悩みを持った市民が多く参加してくれると思うので、充実させてもらいたい。

14. 地域への情報公開は非常に重要なことであり、広報誌を今以上に多く地域へ配布することは出来ないか。また、第1節の3に「病院広報を担う専門職員の採用等も検討していく」と記載されているが、もう少しはっきりと明言することは出来ないか。

15. 第2節の2「医療・介護の連携の強化」で医療・介護連携が記載されているが、3「医療情報の連携」で介護との連携について記載が無い。医療情報の連携を医療間だけでなく、介護とも連携をする旨を記載するべきではないか。

当院は医療機関なので、医療情報を連携する仕組みを検討していくこととしているが、介護情報を含めたデータベースの構築や連携の仕組みについては、市役所が主体となって作ることになる。

16. 医師の確保については、病院の強みや教育面についても記載して、確実に医師を確保するのだという意思表示をして欲しい。また、医師の退職に伴う医療機器の使用停止が起きないように継続使用の体制整備をして欲しい。

17. BSC（バランススコアカード）を用いた目標管理をしている病院が増えてきている。BSCを用いた各部門の目標管理・評価の仕組みを盛り込めないか。

18. 一般会計からの費用負担について、繰入金がある理由を明確に示して欲しい。

19. 表21の救急車搬送受入数が現状と目標がほぼ横ばいであるが、困難症例を踏まえた数値か。

20. 表21の目標値を達成した場合には利益が出るのか。

数字については、院内でシミュレーションを行い、この目標を達成すれば黒字化すると算段している。

21. 新規入院数、利用率、単価等は全て連動しているはずだが、これらの数値は連動を踏まえた上で算出しているのか。

22. がん拠点病院として、外来化学療法は非常に重要になってくる。その際、薬局が関わることも多いため、医療連携については薬局との連携も進めて欲しい。

新計画では、ICTによる情報提供は非常に重要な課題だと認識している。調剤薬局や一部介護機能をもった機関への情報提供も含んでいるが、個人情報保護法の問題等がある為、運営計画には直接記載していない。

23. 少子高齢化のうち、「高齢」については言及・対策しているが、「少子」に対する施策が無い。「少子」への対策を明記することにより、豊中市は安全に子どもを産める街だという安心感が生まれ、職員の出産による離職率の低減等にもつながるのではないか。

3. 最後

本日の意見を事務局で検討し、修正をする。次回その内容を再度審議する。

次回、病院運営審議会の開催は平成29年10月3日（火）を予定。

<以上、終了>